

法政就業力通信

～今月のさんぽ道～

法政大学

就業力育成 3D 教育プロジェクト

<http://3dep.hosei.ac.jp/>

就業力育成3D教育プロジェクト

大学でのキャリア教育と就職支援

特任教員 有田 五郎（ありた ごろう）



略歴

70年 慶応義塾大学経済学部卒

70~06年 伊藤忠商事(株)勤務

06~11年 帝京大学

法政大学職員。

11年~ 法政大学教員

今回は本質的課題を考えてみたい。
大学でのキャリア教育と就職支援をどう区分して取組んでいくべきか？
これは大学でキャリアを担当している教職員が何度も自問自答している問である。
当事者たる我々以前に、学生達や一般教職員の認識を整理すると共通認識は下記
と思える。もちろん、個々の個人・組織による違いはある。

	就職支援	キャリア教育
目的	学生達の就職活動のより良い結果	同左
方法	スキルの指導	これに考え方が加わる
視点	短期的	多少長期的
やり方	個別中心	授業単位

この現状に対してこれで良いのか？もっとキャリア教育をしっかりせねばと考えておられる方々が多い。この状況を踏まえたうえで、キャリア教育の授業をどう考え、どう組立てるべきなのか？

相手目線で自分を見ることが出来る人間になること、そうすればそれこそが就職活動に大きな力となることを強調したい。それを身に付けるために、弊員は3つの要素を大切にキャリア科目授業を展開している。

1. 「自分の理解」

一分間自己紹介で自分特性に加えて自分の何を覚えてもらえるか工夫をこらす話し方を身に付ける。自分の名前を考える。自分を動物や物に例えてみる。自分を表現するポスター作りなどなど。

2. 「他者の理解」

毎回のグループワークは題材によりそれを行う人数・相手を変える、他者の考えを必ずメモする。その学びをこれからの自分にどう活かすのかを書き出すなどとなる。

3. 「現場の理解」

法政大学就業力育成3Dプロジェクトで制作しているDVD教材を見て考える。
リアクションペーパー記入で、学生はPDCAサイクルを体感する。

大学での就職支援とキャリア教育にきちっと線引きをすることは難しく、むしろ担当する各自がその置かれた立場でどうバランスを意識して取組んでいくかが求められる。弊員は企業人事での採用と大学キャリアセンターでの個別指導という就活両側の現場経験に基づき、それを担当している人たちの目線を説明している。教職員は各々の現場経験を活かして、自分なりのやり方・工夫で学生に役立つという取組みを推進してほしい。



日本語で語れないことは英語でも語れない

教授 藤村 博之 (ふじむら ひろゆき プロジェクトリーダー)

外国語が話せると世界が広がるのは事実です。私も研究上の必要から英語以外に3つの言語を勉強してきました。外国語を学ぶと母国語の大切さを痛感します。日本語能力がしっかりしていないと、結局はどれも中途半端になってしまうからです◆最近、大学では英語教育が重視されています。特に話す力の強化に注目が集まっているようですが、外国人と話すには話すべき内容を自分の中に持っていることが必要です。日本語で話せないことは、外国語でも話せません◆外国人と話していて最も良く聞かれる質問は日本に関することです。政治、経済、社会、文化、歴史など、質問は多岐にわたります。外国人の質問に答えられないのは、英語の能力が低いのではなく、答えるだけの情報が自分の中にないからだという場合がしばしばです◆米国人のような発音を練習するよりも、自分の中に語ることを蓄積する方がはるかに意味があると思います。

略歴 84年名古屋大学大学院卒。京都大学博士(経済学)。84~89年京都大学経済研究所助手、90~97年滋賀大学経済学部助教授・教授。97年~03年法政大学経営学部教授、04年~IM研究科教授。



信頼関係から作られるビデオ教材

特任教員 鈴木 美伸 (すずき よしのぶ)

この時期は例年ビデオ教材の制作を行っています。9作目の今回は金融機関を舞台にしており、先日現場撮影を完了しました。これから編集に入り、新年早々に仕上げる予定です。

これまで金融機関についての要望は多かったものの、セキュリティの難しさから協力企業が見つからなかったのですが、このプロジェクトのシンポジウムで知り合った信用金庫の法政大学OBが引き受けて下さり、経営トップ(理事長)まで持ちあげて戴いて全面的な協力を得ることができました。

このように人間の信頼関係から生まれる仕事(取引)がまさに信用金庫の仕事であることも授業では織り込めそうです。どうぞ来年の新作をご期待下さい!

略歴:日米ハイテク企業での営業・人事を経て人事コンサルタントとして独立。キャリアカウンセラー資格取得後は多くの大学でキャリア論の講師を務める。

これがミニマム的なアジェンダです。〇〇さんマターなので、コミットしてください!!

教育支援課長 平山 喜雄 (ひらやま よしお)



法政大学法学部法律学科卒。
学務部教育支援課長

先日、とある講演会で「インフルエンサー」という言葉を聞きました。なんでここで「インフルエンザ」の話?と思いましたが、実はブログや SNS、メディアへの露出などで、その人が商品やサービスを紹介することで大多数の消費者に大きな影響力を発揮する人を指す言葉で、芸能人や有名ブロガーのことをそう呼ぶらしいです。特にインターネットマーケティングの分野で使われる言葉だそうです。前回書いた「意識高い系」の学生たちも好んで使うようです。

「インフルエンサー」だけでなくビジネスの世界では、外来語があふれています。「マター」や「スキーム」、「アジェンダ」、某フィットネスクラブで有名になった「コミット」などなど、この頃は大学でも耳にする機会が増えてきました。大学もグローバル化している証拠でしょうか?(でも、それ日本語でいいじゃんと思っている方、安心して下さい!私もです)。さて、インフルエンサーもインフルエンザも語源は一緒だそうです。言葉のウィルスをまき散らしているって言ったら怒られるかもしれません。そういえば「インフルエンザ」もかつては流行性感冒と言っていました。言葉は時代と共に変わっていきます。そのうち「インフルエンサー」も一般用語化していくのでしょうか、それともウィルスのように退治されてしまうのでしょうか? 今後注目です?!

◆ ジョブスタディ・コラボ・かんとく開催

12/3 本学スカイホールにて行われました「ジョブスタディ・コラボ・かんとく」には、6大学から約20名の学生が参加しました。大手企業人事担当者と中小企業経営者が仕事の楽しさ、やりがい、辛さなど、社会人の本音を語りました。後半は少人数のグループとなり、座談会形式で学生からの『働くこと』についての疑問や質問に答えていただきました。

- ◆ 編集後記 :ビジネス用語つながりで、CEO(Chief Executive Officer 最高経営責任者)やCOO(Chief Operating Officer 最高執行責任者)なども最近は一般的に使われるようになりました。これらの用語はアメリカの企業で使われるものが日本の企業に「輸入」されてきたものですが、あのバンダイには、ガンダム部門の責任者CGO(Chief Gundam Officer)という役職があるようです。外国のものを日本に取り入れてしまうと、何となく「日本的」で面白いですね。世間は忘年会シーズン。きっとCEO(Chief Enkai Officer)と呼ばれている人もいるでしょう(笑)〈事務局:平山〉

法政大学 産学連携 3D教育プロジェクト (事務局:学務部教育支援課)

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL:03-3264-9520 WEB:http://3dep.hosei.ac.jp/

就業力育成3D教育プロジェクト